

あの後課題を提出して、恐る恐る家路につき、インデックスと会話したところ、

魔術サイド

「私たちはアヌスを使うのが常識なんだよ！学園都市はおかしいかも」

とまあ似たりよつたり of 常識を解説された。

これで学園都市だけでなく世界自体が異常だということも実感できたといえる。

。。俺だけが異常なのかもしれないが。

工口世界の補正なのか、シスター服が肌にぴったりと張り付き、お尻を強調した形のインデックスに不覚にもムラムラしてしまった。うっ、罪悪感。

そんな日々で数日後……。俺は白井へ会いに常盤台中学へ向かっている。
「不幸だ……。追加で課題つて小萌先生エグすぎるつて」

小萌「上条ちゃんはずいぶん普通の授業の補習が終わっただけで
夏の課題はぜんぜんおわってないのですよー」

「つてさあ、やつとけよ異世界の俺！」

むなしい叫び声をあげる。

少々大きな独り言となつたので周りの視線がちよつと痛い。

今からでも留年回避のため早めにやつておかねば……。

異世界の自分へ八つ当たりもほとんどに、
いつの間にか着いた常盤台中学で俺は白井を探すことにした。

元々は嚴重に警備されていた気もする常盤台中学だが、
どうやらこの世界では比較的簡単に入れる校風のようなだ。

いや、お嬢様学校としてどうなんだそれ。

見学気分でそこらをブラブラしていたところ、
見覚えのあるツインテールが目に入る。

「おー白井さんや、白井さんじゃないですか？」

「げっ、類人猿かなぜここに……」



「あー……出力間違えたなー……」

体育の能力開発授業中、クラスメイトに怪我をさせてしまった美琴は、今は保健室に向かっていた。

罪悪感から自分から進んで救急箱を取りに行くことにしたのだ。

とはいえ、ちよつと静電気が飛んだだけで、転んで怪我されても正直、こっちも困る所である。



「つと、到着到着……失礼します」

「おっ♡おっ♡おっ♡おんっ♡♡」

「ん……？ なーんか聞き覚えのある……？」



「ん……もしかして黒子マ」

「ッッッ……ねえさま？ なな？ なな？」

「ッッッ……ねえさま？ なな？ なな？」

「あー私がけがとかじゃなくて、いろいろあって……」
「……黒子は体調悪いとか？ 大丈夫？」

「いえわたくしはその……持病のオホ声が……おほほ」

（先日、類人猿さんを牛伝った後……丸一日お姉様がわたくしに塩対応……）

（今！類人猿さんとのセックスがバレたら……）

（また冷たくされるかもという恐怖ッ！隠し通さねばッッ！！）

（……あー、誰か来たのかな？）

（……でもこの世界って普通に見られながらするんだもんなあ）
（いやーほんと過激なすごい世界だよなあ……）





まわ!!?

ん

ん

「く、黒子……すごい声だけどほんとに大丈夫……？」

へニッ
ツツ
ツのクソボケっ
つ
つ
♡
♡
♡
♡
♡
♡
♡
♡
♡
♡
♡
♡

へな
に重
キ、やが
つつ
て♡
♡
♡
♡
ますの
おっ
っ
♡
♡
♡
♡
♡
♡
♡



「いっ♡いえ...ッ♡少し猿、いやねずみが♡♡♡♡♡
へこちらの事情を...おっ♡考えず♡おっ♡そ♡い♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡ふう……ふう……♡♡♡♡♡

（お姉様に見られながらのセックスは刺激的すぎますの♡♡♡♡♡）
（類人猿のちんぼサイズ意識して……あんの♡♡）

（ちんちん「エロマン」の締めりがぎゅうぎゅう……ヤバッ）





「あー…私もう行かなきゃ」
「ちゃんと安静にしたほうがいいわよ、黒子」

「お…ほっ♡も、もちろんですの♡」
「おっ♡お姉様…♡♡♡♡♡」



「いや……バレバレだっのー！」

「すっごいオホ声あげちゃってまあ」

「体調不良じゃなくて風紀委員のお務めだったかあ」

「私によく風紀委員の領域ですのー！ってうるさいもんね」
「そんな必死に隠さなくても美琴さんは察せますよっのー！」







い
い
い
い
い





まわ!!?

ん

ん













「ん……もしかして黒子マ」

「ッッッ……ねえさま？ な？ な？ な？」

「ッッッ……ねえさま？ な？ な？ な？」

「あー私がけがとかじゃなくて、いろいろあって……」
「……黒子は体調悪いとか？ 大丈夫？」

「いえわたくしはその……持病のオホ声が……おほほ」

（先日、類人猿さんを牛伝った後……丸一日お姉様がわたくしに塩対応……）

（今！類人猿さんとのセックスがバレたら……）

（また冷たくされるかもという恐怖ッ！隠し通さねばッッ！！）

（……あー、誰か来たのかな？）

（……でもこの世界って普通に見られながらするんだもんなあ）
（いやーほんと過激なすごい世界だよなあ……）





まお!!?

んっ

んっ

♡♡♡♡♡ふう……ふう……♡♡♡♡♡

（お姉様に見られながらのセックスは刺激的すぎますの♡♡♡♡♡）
（類人猿のちんぼサイズ意識して……あんの♡♡）

いっしょ

おっぱい

びん

びん

（ちんぽ・おまんこ）の締めりがぎゅうぎゅう……ヤバッ



「あー…私もう行かなきゃ
「ちゃんと安静にしたほうがいいわよ、黒子」

「お…ほっ♡も、もちろんですの♡
「おっ♡お姉様…♡♡♡♡♡」



「いや……バレバレだっのー！」

「すっごいオホ声あげちゃってまあ」

「体調不良じゃなくて風紀委員のお務めだったかあ」

「私によく風紀委員の領域ですのー！ってうるさいもんね」
「そんな必死に隠さなくても美琴さんは察せますよっのー！」











まお!!?

んっ

んっ













「ん……もしかして黒子マ」

「ッッッ……ねえさま？ なな？ なな？」

「ッッッ……ねえさま？ なな？ なな？」

「あー私がけがとかじゃなくて、いろいろあって……」
「……黒子は体調悪いとか？ 大丈夫？」

「いえわたくしはその……持病のオホ声が……おほほ」

（先日、類人猿さんを牛伝った後……丸一日お姉様がわたくしに塩対応……）

（今！類人猿さんとのセックスがバレたら……）

（また冷たくされるかもという恐怖ッ！隠し通さねばッッ！！）

（……あー、誰か来たのかな？）

（……でもこの世界って普通に見られながらするんだもんなあ）
（いやーほんと過激なすごい世界だよなあ……）





♡♡♡♡♡ふう……ふう……♡♡♡♡♡

（お姉様に見られながらのセックスは刺激的すぎますの♡♡♡♡♡）
（類人猿のちんぼサイズ意識して……あんの♡♡）

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

（ちゅっ♡マン♡の締めりがぎゅうぎゅう♡……ヤバっ♡）



「あー…私もう行かなきゃ
「ちゃんと安静にしたほうがいいわよ、黒子」

「お…ほっ♡も、もちろんですの♡
「おっ♡お姉様…♡♡♡♡♡」



「いや……バレバレだっのー！」

「すっごいオホ声あげちゃってまあ」

「体調不良じゃなくて風紀委員のお務めだったかあ」

「私によく風紀委員の領域ですのー！ってうるさいもんね」
「そんな必死に隠さなくても美琴さんは察せますよっのー！」



